安全に避難するための準備

津波が到達する恐れがあるときは、できるだけ早く高いところに逃げる必要があります。避難場所は、その時どこにいるかにより異なるので、「自らの命は、自らが守る（自助）」ため、家族でそれぞれが逃げる場所を話し合っておきましょう。避難経路は、いくつも考えておくことが必要です。

●我が家のハザードマップを作ろう！

① あなたの自宅（勤め先）は、どこですか？

・マップ中に印をつけます。

② ①の場所から速やかに避難できそうな避難場所（「海抜標高が高い場所（高台）」、「一時避難場所」や「長期滞在避難場所」）に印をつけます。

・ここで印をつけるのは、家族が待ち合わせる場所です。

③ 徒歩で避難することを前提に、避難経路を考えましょう。

≪避難経路を選ぶポイント≫

・津波は河川をさかのぼってきます。河川を渡る、近くを通るのは避けましょう。
・地震で建物やブロック塀などが倒れた場合、通行に支障がない道を選びましょう。
・夜間、停電時でも安全に通行できる目印のある道を選びましょう。

④ 実際に避難経路を歩いて確認しましょう。

≪避難経路を歩く時のポイント≫

・地図では分らなかった地形を確認しましょう。
・避難経路の道幅や危険なブロック塀の有無などの周辺の様子を確認しましょう。
・避難場所までの時間を確認しましょう。

避難場所		所要時間	分

《注意》状況判断で避難を！

実際の津波発生時には、予測される浸水より範囲が広くなることや、浸水が深くなる場合があります。あらかじめ決めた避難経路で安心せず、避難する際には、周囲の状況を見ながら自分で判断して避難しましょう。非常持出袋も忘れずに！

津波警報と注意報の種類

種類	発表基準（予想される津波の高さ）	発表される津波の高さ 数値	発表される津波の高さ 巨大地震の場合	想定される被害	取るべき行動
大津波警報	高いところで3mを超える場合。	10m超 10m 5m	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難する。
津波警報	高いところで1mを超え、3m以下の場合。	3m	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。	
津波注意報	高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合。	1m	―	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。	海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れる。

気象庁は、地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合、地震が発生してから約３分を目標に大津波警報や津波警報または津波注意報を発表します。その内容は、津波の到達予想時刻や予想される津波の高さなどです。

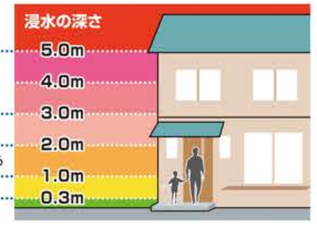
●気象庁のホームページ
http://www.jma.go.jp/jp/tsunami/

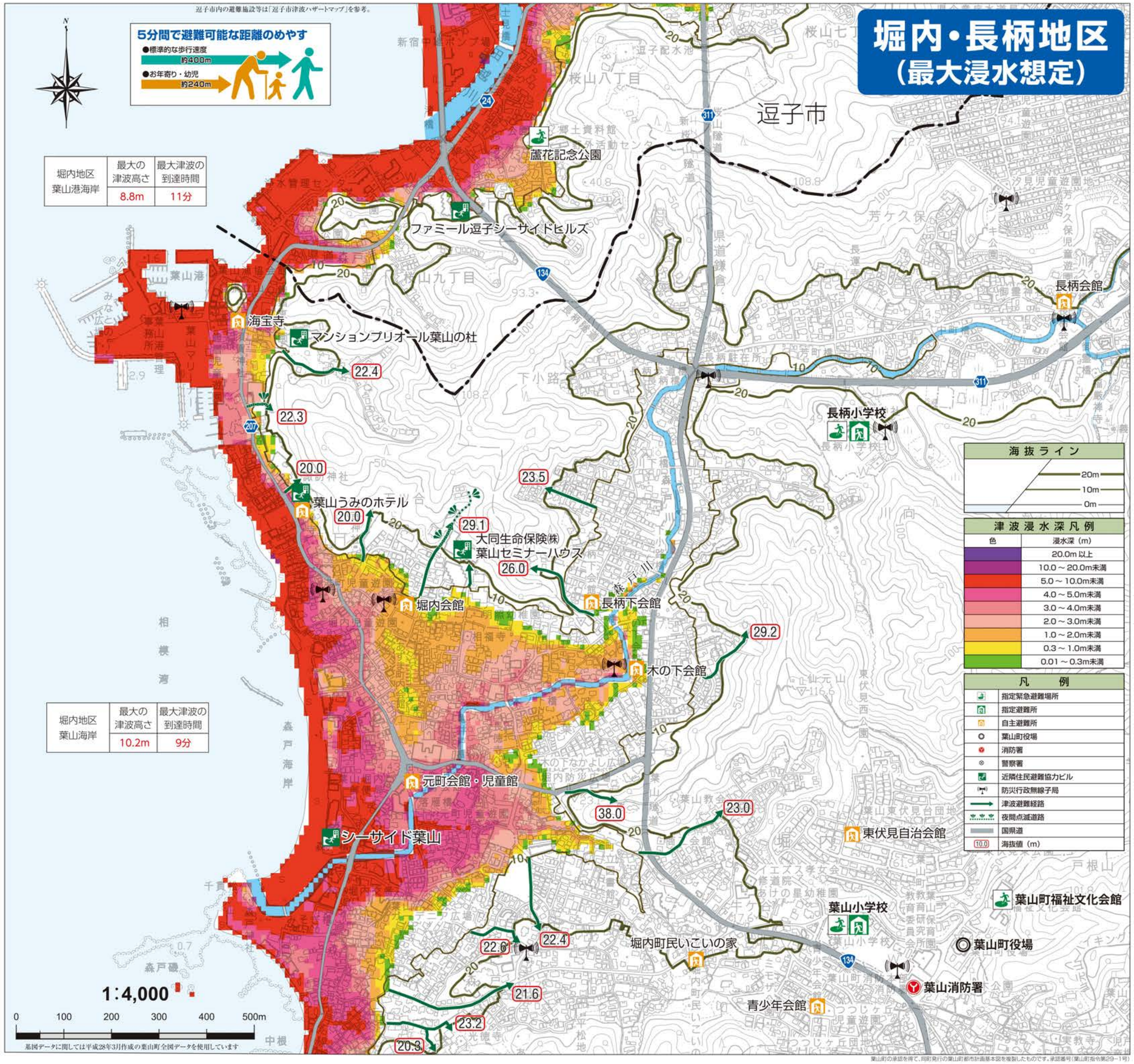
想定する地震と震源域

このハザードマップは、国の新たな知見を取り入れ、神奈川県が平成27年3月に公表した最大クラスの津波による浸水想定をもとに作成しています。発生頻度は極めて低いものの、発生すれば甚大な被害をもたらす①相模トラフ沿いの海溝型地震（西側モデル）、②相模トラフ沿いの海溝型地震（中央モデル）、③元禄関東地震タイプ、④元禄関東地震タイプと国府津−松田断層帯地震の連動地震、⑤慶長型地震の5つの地震の予測図を基に「浸水域」と「浸水深」が最大となるよう重ね合わせた津波浸水想定図です。

なお、神奈川県の津波浸水想定は、県が一定の条件に従って、予測を行った結果であり、津波の浸水が予測される区域を示したもので、津波による災害の発生や被害の範囲を決定するものではありません。（浸水区域の範囲外でも、津波の浸水が発生する場合があります）

浸水の深さと危険度の目安





葉山町の承認を得て、同町発行の葉山町都市計画基本図を複製したものです。承認番号（葉山町指令第29−1号）